

本 会 報

学会だより

◇ 常任幹事会議事録

開催日時：平成 23 年 9 月 10 日（土）14 時より

開催場所：東京大学農学部

出席者：倉田のり，奥野員敏，草場信，野々村賢一，横井修司，鳥山欽哉，大澤良，伊藤純一，金澤章，武田真，奥本裕，田口文緒，北野英己，久保山勉，有村慎一，乙部千雅子，千田峰生，穴井豊昭

各常任幹事からの経過報告後，Global Plant Council の 2011 年会議報告と今後の対応について，科研費細目表の改訂について，2012 年度秋季大会（京都産業大）の日程と 2013 年春季大会開催地に関して討議を行った。

◇ 幹事会議事録

開催日時：2011 年 9 月 22 日（木）15：00～17：00

開催場所：福井市地域交流プラザ アオッサ 6 階

参加者：貴島祐治，阿部利徳，高畑義人，西尾剛，千田峰生，鳥山欽哉，渡邊和男，久保山勉，大澤良，田部井豊，半田裕一，阿部知子，金子幸雄，伊藤純一，荻原保成，多田雄一，有村慎一，佐藤豊，小島昭夫，村井耕二，北野英己，奥本裕，築山拓司，齊藤大樹，清水顕史，辻本壽，武田真，安井秀，穴井豊昭，倉田のり，奥野員敏，草場信，野々村賢一，横井修司，乙部千雅子，田口文緒，友岡憲彦，久保山勉（計 38 名）

委任状：阿部純，金澤章，三浦秀穂，岩永勝，宍戸理恵子，芦荻基行，富田因則，坂井真，和田卓也，那須田周平（計 10 名）

欠席者：安東郁男，中村郁郎（計 2 名） 総計 50 名

1. 各常任幹事経過報告・関連報告

1) 総務（野々村）：会員数の推移，義援金について報告があった。

2) 科研費・農学会（伊藤）：研究成果公開促進費（学術定期刊行物）が H23～26 年までの 4 年間の複数年内定となったこと，研究成果公開促進費（シンポジウム）が福井大会に交付されたこと，24 年度の調書の作成を京都大会の行われる京都産業大学に依頼したことが報告された。

3) 国際・渉外，学会間連携（鳥山）：アジア作物学会へ育種学会から中園幹生先生が参加することの報告があった。

4) ホームページ（那須田（代理：野々村））：HP 掲載などの件数について報告がなされた。

5) 地域：北海道，東北，中部，近畿，四国，九州地区の活動報告，活動予定が報告された。

6) LMO（大澤）：LMO 小委員会での議論の報告がなされた。

7) 会計（奥本）：2010 年度決算，2011 年度予算について報告がなされた。

8) 編集英文誌（友岡）：2011 年 BS 特別号の発行（ダイズ時代のゲノム育種特集号）に向けた進捗状況，J-STAGE2 の現状，J-STAGE3 の運用開始，投稿数や，IF，採択率などの現況が報告された。

9) 編集和文誌（北野）：編集状況および品種育成の項目の新設を継続審議中であることが報告された。

10) 集会（有村）：福井大会の演題数，参加者数，次大会（宇都宮大学）開催の日程報告がなされた。

2. 議事

1) 平成 23 年度日本育種学会賞の選考（奥野）

学会賞等選考委員会および幹事会の議を経て次の 2 件に選定した。

◎吉村淳（九州大学大学院農学研究院，教授）：イネ実験系統群の作出とゲノミクス研究における利用

◎「八幡平市花き研究開発センター・安代リンドウ開発合同育種チーム」：高品質「安代りんどう」ブランド品種群の育成と海外展開

2) 平成 23 年度日本育種学会奨励賞の選考（奥野）

学会賞等選考委員会および幹事会の議を経て次の 2 件に選定した。

◎諏訪部圭太（三重大学大学院生物資源学研究科）：アブラナ科植物における分子遺伝学研究基盤の構築と育種学的研究

◎山崎将紀（神戸大学大学院農学研究科）：穀物における選抜遺伝子および農業形質関連遺伝子の解析手法の開発

3) Global Plant Council（GPC）への育種学会としての参加について（鳥山）

GPC 設立の趣旨，主な加盟学会，主な活動内容，年会費，会長から GPC 側に加盟の意思表示をしたことが説明された。幹事会での議論の結果，今後の GPC の動向について情報収集を更に進めつつ，加盟の是非について慎重に判断していくこととなった。

4) 新編集委員 1 名の選出について（友岡）

英文誌担当幹事から 1 名の編集委員の増員（石本政男氏）の提案があり，賛成多数により承認された。

5) 平成 24 年度秋季大会（第 122 回講演会・第 54 回シンポジウム）開催地について（有村）

平成 24 年度秋季大会の開催地（京都産業大）と日程が提案され，承認された。

3. 関連報告

1) シンポジウム委員会（大澤）：シンポジウムの募集を行っていることが報告された。

2) 男女共同参画委員会（大澤）：内閣府から発行されている男女共同参画白書の内容を育種学会 HP から公表するための準備を行っていること、男女共同参画シンポジウムの開催に向けた準備状況が報告された。

3) 記者発表（草場）：9月13日に東京大学にて3発表課題の記者発表を行ったことが報告された。

4) その他

120回大会における優秀発表賞の選考方法について説明された。

◇ 第120回講演会日本育種学会優秀発表賞

2011年日本育種学会秋季大会（第120回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の13課題に決定されました。

講演番号 407：イネの juvenile-adult 相転換に関わる変異体の解析 ○田中伸裕^{1,4}・伊藤博紀²・千徳直樹²・榊原均³・小嶋美紀子³・井澤毅²・伊藤純一¹・長戸康郎¹ (1. 東京大学農学生命科学研究科, 2. 農業生物資源研究所, 3. 理化学研究所, 4. 日本学術振興会特別研究員 (DC1))

講演番号 307：イネ転移因子 mPing による Hd3a 遺伝子の挿入変異体 ○伊藤真・齊藤大樹・K. Mustafa・吉竹良洋・浅見武人・浅野翔・横尾敬行・徐銓・泉はるか・奥本裕 (京大院農)

講演番号 406：Hd3a-14-3-3-OsFD1 からなる複合体 Florigen Activation Complex の機能解析 ○辻寛之¹・田岡健一郎¹・大木出¹・中島千佳¹・児嶋長次郎^{1,2}・島本功¹ (1. 奈良先端大・バイオサイエンス, 2. 阪大蛋白研)

講演番号 P035：*rcnl* 変異体を用いたイネの根の通气組織形成遺伝子の発現解析 ○山内卓樹¹・塩野克宏²・高牟禮逸朗³・長村吉晃⁴・堤伸浩⁵・西澤直子^{5,6}・加藤清明⁷・中園幹生¹ (1. 名大院生命農学, 2. 福井県立大, 3. 北大農院, 4. 農業生物資源研究所ゲノムリソースセンター, 5. 東大農学生命科学, 6. 石川県立大生物資源工学研究所, 7. 帯広畜産大)

講演番号 P040：湛水条件下でダイズの胚軸において形成される二次通气組織の解析 ○柳川麻子¹・高橋宏和²・平賀勲³・島村聡⁴・中園幹生² (1. 名古屋大・農学, 2. 名古屋大院・生命農学, 3. 作物研, 4. 東北農研)

講演番号 416：miR171a による植物の発生制御 ○住吉光莉¹・高梨秀樹^{1,2}・有村慎一¹・堤伸浩¹ (1. 東大農学生命科学, 2. 名大理学)

講演番号 603：イネにおける根の発達と機能に関わる遺伝子ネットワーク探索のための網羅的遺伝子発現プロファイリング ○竹久妃奈子¹・佐藤豊¹・五十嵐元子^{1,2}・安彦友美^{3,4}・B. Antonio¹・並木信和⁵・犬飼義明⁶・中園幹生⁶・長村吉晃¹ (1. 生物研, 2. 奈良先端大・バイオ, 3. 東大農学生命科学, 4. 国際農研, 5. 三菱スペース・ソフトウェア (株), 6. 名大院生命農学)

講演番号 713：次世代シーケンサーを用いたイネ雌性配偶体構成細胞のトランスクリプトーム解析 ○高梨秀

樹^{1,5,6}・平田悠人¹・大柳一^{2,3}・瓦間淳子²・永田俊文³・豊田敦⁴・藤山秋佐夫⁴・倉田のり³・堤伸浩¹ (1. 東大農学生命科学, 2. 三菱スペース・ソフトウェア (株), 3. 遺伝研・植物遺伝, 4. 遺伝研・比較ゲノム解析, 5. 名大理学, 6. 日本学術振興会特別研究員 PD)

講演番号 310：主要アレルゲンを低減化した組換えイネ種子タンパク質と米アレルギー患者血清との反応性試験 ○若佐雄也¹・平野可奈²・宇須須厚雄³・松田幹²・高岩文雄¹ (1. 生物研, 2. 名古屋大学大学院生命農学, 3. 藤田保健衛生大学)

講演番号 624：Vigna 属野生種の Neo-domestication を目指した栽培化遺伝子のファインマッピング ○内藤健¹・加賀秋人¹・磯部祥子²・白澤健太²・平川英樹²・田畑哲之²・友岡憲彦¹ (1. 農業生物資源研究所, 2. かずさ DNA 研究所)

講演番号 P018：イネ温度感受性 virescent 変異体の解析 ○森田竜平^{1,2}・中川繭³・林依子²・小暮祥子²・竹久妃奈子^{2,4}・東海林英夫²・佐藤雅志⁵・阿部知子^{1,2} (1. 理研イノベーション推進センター, 2. 理研仁科センター, 3. 名古屋大院・生命農学, 4. 生物研, 5. 東北大院・生命科学)

講演番号 113：ダイズにおける染色体部分置換系統の育成 ○渡辺啓史¹・加賀秋人¹・清水武彦¹・町田佳代¹・坪倉康隆²・夏正俊¹・B. Eduardo²・山田哲也²・平田香里²・大木信彦³・山田直弘²・羽鹿牧太²・原田久也¹・石本政男¹ (1. 農業生物資源研究所, 2. 作物研究所, 3. 九州沖縄農業研究センター)

講演番号 309：トマト重要形質解析のための TILLING 技術の基盤開発 ○岡部佳弘・浅水恵理香・斎藤岳士・松倉千昭・有泉亨・溝口剛・江面浩 (筑波大院生命環境)

◇ 日本育種学会第120回講演会選定課題記者会見報告

発表日時：平成23年9月13日 11:15～12:00

会見場所：東京大学弥生講堂アネックス・エンゼル研究棟講義室

出席者：幹事長 草場信、庶務幹事 伊藤純一

参加報道機関：時事通信、科学新聞、日本農業新聞、化学工業日報、日経BP、読売新聞の6社

平成23年9月23日（金曜）、24日（土曜）に福井県立大学（福井県吉田郡）で行われた日本育種学会第120回講演会の講演課題（計254課題）、震災の影響によって中止となった春季講演会の中から選定された1課題の、合計4課題（3つの研究内容）について記者会見を実施した。

【記者会見課題】

(1) 講演番号：503「複合病害抵抗性遺伝子 BSR1 による単子葉および双子葉作物への病害抵抗性の付与」前田哲・横谷尚起・菅野正治・小田賢司・松井南・廣近洋彦・高辻博志・森昌樹（農業生物資源研究所、岡山県

農林水産総合センター生物科学研究所, 理化学研究所 PSC)

- (2) 講演番号: 223 ①「エピジェネティックな変化を誘導することで遺伝子組換えによらずに形質を変化させた植物体の作出」(第119回大会選定課題) 金澤章・稲場純一・志村華子・太田垣駿吾・塚原小百合・松澤章彦・金甫民・後藤一法・増田税(北海道大学大学院農学研究院)(119回大会)
- (3) 講演番号: 320 ②「外来遺伝子を持たずに特定の形質が変化した植物体の作出に必要なエピジェネティックな変化の促進」金澤章・稲場純一・河西めぐみ・志村華子・増田税(北海道大学大学院農学研究院)(120回大会)
- (4) 講演番号: P001 「複合耐病性を有する高品質ビール大麦品種「彩の星」の育成」荒井正一・金谷良市・斉藤渉・保木健宏・木原誠・高橋進・小林千裕・七森理仁・吉田慎一郎・山田真司(サッポロビール(株)バイオ研究開発部, サッポロビール(株)群馬工場第2生産部, サッポロビール(株)商品・技術開発センター)
- それぞれの課題について発表者に説明用レジュメを作成して頂き, それに基づいて草場と伊藤が説明し, 質疑応答を行った. 記者会見後, 講演番号 223/320 の課題が日本農業新聞(9/14), 日経バイオテク(9/14), 化学工業日報(9/16)に, 講演番号 320 の課題が日経バイオテク(9/14)に, 講演番号 P001 の課題が日経バイオテク(9/14)に, それぞれ掲載された.

研究助成公募の案内

◇ 財団法人タカノ農芸化学研究助成財団 平成24年度研究助成対象者募集要領

本財団は, 農学, 特に農芸化学(生物資源等)に関する学術研究を助成し, もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました.

本年度も, 農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し, 研究助成金を交付いたします. 特に, 若手研究者への助成の枠を設け, 今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています. 平成24年度助成対象者は次の要領で募集いたします.

1. 研究課題: (1) 穀類並びに豆類の栽培生産技術(栽培・育種等)に関する研究 (2) 穀類並びに豆類の利用及び加工技術に関する研究 (3) 穀類並びに豆類の品質・成分並びに栄養生理等に関する研究 (4) 納豆菌等微生物の特性・生成酵素等に関する研究
2. 研究助成対象者: (1) 大学及び短大の研究者(大学院生も含む) (2) 国立試験研究機関の研究者 (3) 公立試験研究機関の研究者 (4) その他本財団が適当と認めた研究者
3. 助成金額: 一般研究者 1件 100万円を7件程度 若手研究者 1件 50万円を6件程度 (昭和47年4月1日以

降に生まれた者)

4. 交付時期: 平成24年5月予定
5. 申請手続き方法: 当財団所定の申請用紙に必要事項を記入し, 平成24年2月1日から平成24年3月20日(必着)までに財団理事長宛に郵送願います. 尚, 申請書用紙は, タカノフーズ(株)ホームページ <http://www.takanofoods.co.jp/> 内【タカノ財団について】からダウンロードできます. または, E-mailにお問合せいただきましたら, 書類を添付して返信いたします.
6. 申請書請求先及び送付先: 〒311-3411 茨城県小美玉市野田1542 (財)タカノ農芸化学研究助成財団 TEL: 0299-58-4363, FAX: 0299-58-3847 E-mail: tazaidan@takanofoods.co.jp
7. その他: 同一研究課題で, 他の団体等へ応募され, かつ, 本年度重複助成となられた場合には, 助成をできない場合がありますのでご注意下さい.

◇ (財)日立環境財団より第39回「環境賞」候補の応募案内

財団法人日立環境財団では第39回「環境賞」候補の募集をしております(2011年10月3日～2012年1月20日当日消印有効). 環境保全に関する調査, 研究, 開発, 実践活動が授賞対象です. 詳細につきましては, 同財団ホームページ (<http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/works/work01.html>) をご覧ください.

◇ 談話会だより

第6回東北育種研究集会の報告

第6回東北育種研究集会は, 紅葉も美しい山形市の山形大学小白川キャンパスで10月20日に行われました. 本来は福島県が当番でありましたが, 3月の東日本大震災と東京電力の福島第一原子力発電所の事故により, 福島開催が無理との判断で, 1年早く山形に開催が回ってきたものです. これはまた, 日本作物学会東北支部会も同様の判断で, 山形での開催が決まっていたことから, 両方に参加する会員の便も考慮して日時が決められました. 今年は学生さんも含めて44名の参加で行われました. 14時の開会で, 最初に東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故で被災した方々に対して1分間の黙祷が捧げられました. 記念講演として, 山形県農業総合研究センター水田農業試験場の中場勝氏による「水稻品種「つや姫」の育成——お米はここまでおいしくなれる」という演題で, 育成経過, 諸特性, 食味等についてデータを示しながら熱っぽい講演が行われました. 特に食味の良さと, 平成22年の高温下でも整粒歩合や白色度が高く白未熟粒が少なく1等米比率が圧倒的に高かったということが印象に残りました. 「つや姫」2010年のフードアクション・日本アワード, プロダクション部門の賞に輝いたという. その後のポスター発表は18題あり, 休憩を挟

んで約1時間半、ポスターの前で熱心な討論が行われました。18時より、情報交換会（懇親会）では、山形県農業総合研究センターの梅津所長も加わり、県の農業を発展させる上で、品種改良は基本となるのお話で、酒を酌み交わしながら有意義な交流が行われました。

本東北育種研究集会の開催に当たっては、地域幹事の千田先生よりいろいろなお心配をいただき、また中西印刷様より、東北地区の会員に開催案内をメール送信していただき東北地区の全会員に周知し、滞りなく開催することが出来ました。今回の東北育種研究集会は山形大学の阿部および笹沼が事務局としてお世話させていただきました。

ポスター発表の題目等は以下のようです。

ポスター発表プログラム

P01: エダマメにおけるアラニン生合成に関連する酵素の発現解析. 本間彩夏・笹沼恒男・阿部利徳 (山形大学農); P02: ダイズ在来系統ダダチャマメの系統分化. 小西省吾・笹沼恒男・阿部利徳 (山形大農); P03: Uゲノムをもつエギロプスで見られた倍数性種特異的ハプロタイプの新成立過程の考察. 村上久遠¹・河原太八²・阿部利徳¹・笹沼恒男¹ (1. 山形大農, 2. 京大院農); P04: 糖を多く含有するイネ品種育成への試み (2). 関井拓真・笹沼恒男・内田晋作・阿部利徳 (山形大農); P05: イネの胚嚢形成を制御するシグナル伝達経路の研究. 榎村理恵・伊藤幸博 (東北大学大学院農学研究科); P06: サイトカイニンと *KNOX* 遺伝子をつなぐ遺伝子の探索. 高杉知彰¹・藤田雅丈²・倉田のり^{2,3}・伊藤幸博¹ (1. 東北大院・農, 2. 遺伝研, 3. 総研大・生命科学・遺伝学); P07: イネのシュート発生突然変異体の同定と解析. 秋葉貴文・伊藤幸博 (東北大学大学院農学研究科); P08: *Rf2* に結合して稔性回復に関わる遺伝子の単離を目指した yeast two hybrid 解析. 藤井慎也・風間智彦・小島創一・鳥山欽哉 (東北大学大学院農学研究科); P09: ハイブリッドセルラーゼ遺伝子の作成とイネにおける過剰発現の影響. 古川佳世子・伊藤幸博 (東北大院農); P10: *KNOX* 遺伝子が異所発現する新たなイネ突然変異体の同定. 石橋まゆ・伊藤幸博 (東北大・農); P11: アブラナ属並びに近縁属における耐塩性検定. 那須志織・北柴大泰・西尾剛 (東北大学大学院農学研究科); P12: WA 型細胞質雄性不

稔性イネにおけるミトコンドリア遺伝子 *orfB* の RNA 編集. 平脇佳弥・風間智彦・鳥山欽哉 (東北大農); P13: 細胞質雄性不稔性イネ RT98A の花粉観察とその稔性回復遺伝子 *Rf98* のマッピング. 五十嵐圭介¹・風間智彦¹・本村恵二²・鳥山欽哉¹ (1. 東北大農, 2. 琉球大農); P14: *I/I* 遺伝子を有する黄ダイズ栽培集団中に混入した *i* 遺伝子の由来. 石郷岡直人・千田峰生 (弘前大学農学生命科学); P15: 黄ダイズおよび着色ダイズにおける *CHS* 遺伝子翻訳産物量の定量比較. 岩間信明・倉内佑・千田峰生 (弘前大農学生命科学); P16: ウイロイド PSTVd の一部領域導入タバコの作出とその生育特性. 鳥倉健太・葛西厚史・佐野輝男・原田竹雄 (弘前大農学生命科学部); P17: Atgai 形質転換体タバコの接ぎ木によるパートナーへの影響. 岩城玲香・徐海燕・原田竹雄 (弘前大農学生命科学部); P18: 突然変異誘発による粘り成分の多いサトイモ系統の作出. 齋藤裕太郎・五十鈴川寛司・酒井友幸 (山形農研七園試)

千田峰生 (弘前大学農学生命科学部)

日本育種学会会員異動 (2011.7.21 ~ 2011.10.20)

- ◇ 普通会員入会: 永澤信洋 (秋田), 黒田幸浩, 平川英樹 (千葉), 松本憲悟 (三重)
- ◇ 学生会員入会: 太田雄也 (北海道), HMON KHAING PANN WITT (茨城), 加藤雅樹 (千葉), 磯野美也子, 鈴木晶統 (東京), 久米暁子 (愛知), 谷口晃一 (福岡)
- ◇ 外国会員入会: SUZUKI NOBUHIRO (アメリカ合衆国)

住所変更等

- ◇ 普通会員: 三上泰正 (青森), 藤森雅博 (岩手), 岩永勝, 門脇光一, 金森裕之, 小林伸哉, 平将人, 土門英司, 深井英吾 (茨城), 坂本知昭 (石川), 笠島一郎 (奈良), 馬場孝秀, 山口修 (福岡), 山村卓也 (沖縄)
- ◇ 外国会員: SASAKI KAZUHIRO (フィリピン)

逝去

駒嶺穆 (東京)

慎んでご冥福をお祈りいたします。